

報告資料

令和4年5月17日(火)
熊本県防災会議等合同会議

目次

- (1) 梅雨期の見通し等について(熊本地方気象台) 2
- (2) - 1 「令和2年7月豪雨における災害対応の振り返り」への対応状況 16
- (3) 九州を支える広域防災拠点イメージ(案) 20
- (4) - 1 国民保護計画に基づく令和3年度の取組み及び令和4年度の計画について 21

(1)

今年の梅雨の見通し等について

令和4年5月17日
熊本地方気象台

1. 今年の梅雨の見通しについて
2. 地域防災支援強化の取り組みについて
3. (参考)線状降水帯の予測情報の提供について
4. (参考)キキクルのご紹介

台風の上陸・接近が多い

雷雨が発生しやすい

最も大雨が発生しやすい

梅雨末期の大雨

4月

5月

6月

7月

8月

9月

高気圧と低気圧が交互に通る
天気は周期変化

沖縄・奄美地方梅雨入り

前線や低気圧

太平洋高気圧

九州北部梅雨入り

平年の梅雨期間

梅雨入り：平年6月4日頃

梅雨明け：平年7月19日頃

熊本の6月・7月合計の降水量の平年値は約800ミリ。
年降水量の約4割がこの時期に降る。(年降水量約2000ミリ)

全球の大気

地球温暖化の影響等により、全球で大気全体の温度が高い。

熱帯域

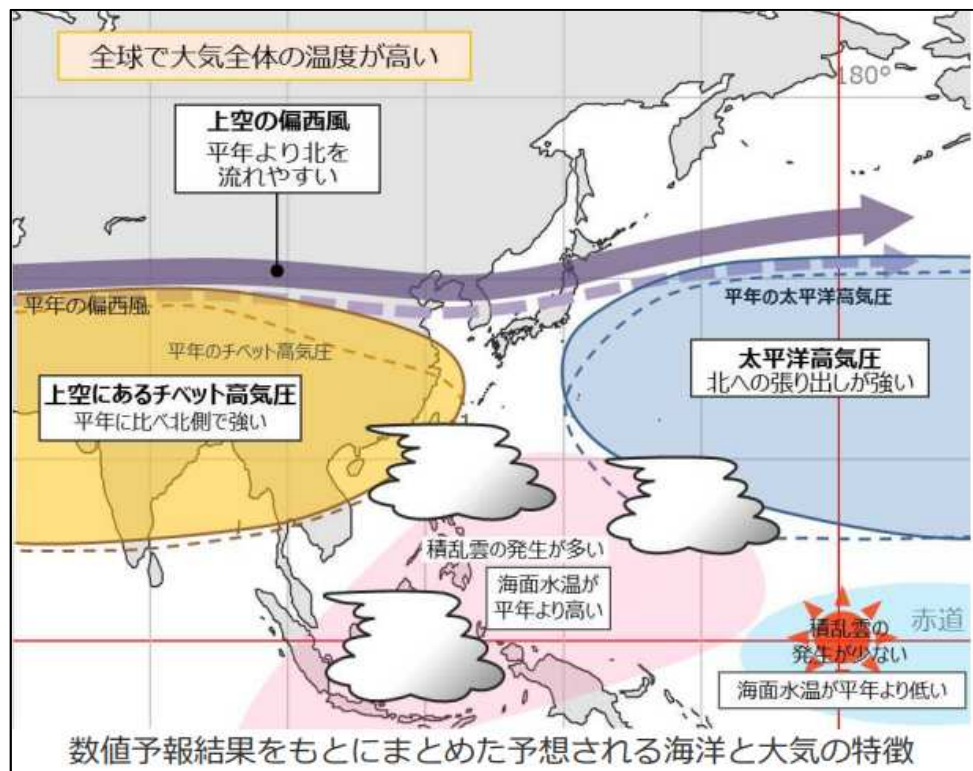
海面水温は太平洋赤道域の中部から東部では低い一方、太平洋熱帯域西部で高い見込み。このため、積乱雲の発生は太平洋赤道域の日付変更線付近で少ない一方、太平洋熱帯域西部で多い。

上空の偏西風

これらの影響により、チベット高気圧は北側で強く、上空の偏西風はユーラシア大陸から日本の東にかけて平年より北を流れやすい。

九州付近

太平洋高気圧は北への張り出しが強く、**前線や湿った空気の影響を受けやすい時期**がある。



6月は梅前線の北上が例年より早まる？

今年の梅雨の見通し（5～7月の天候の見通し）

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう3か月の気温は高い。
- 向こう3か月の降水量はほぼ平年並だが、6月の降水量は平年並が多い。

5月	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
6月	前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多い。
7月	期間の前半は前線や湿った空気の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多い。 期間の後半は太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多い。

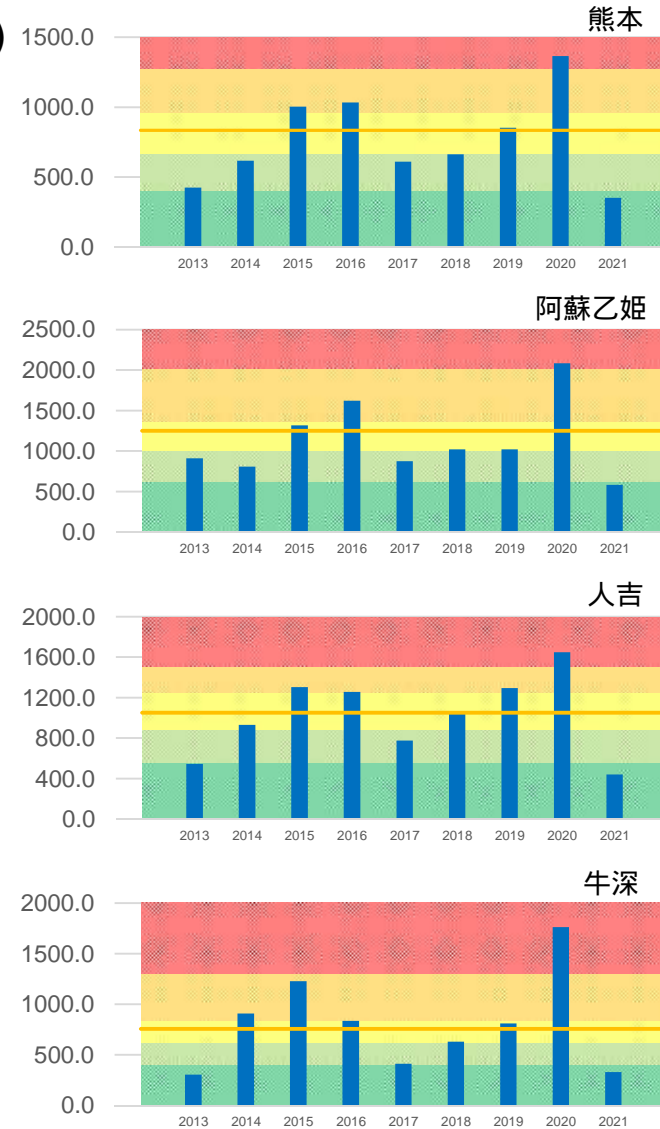
	5月	6月	7月
気 温	低 並 高 (%)	低 並 高 (%)	低 並 高 (%)
	ほぼ平年並 30:30:40	平年並か高い 20:40:40	平年並か高い 20:40:40
降 水 量	低 並 高 (%)	低 並 高 (%)	低 並 高 (%)
	平年並か多い 20:40:40	平年並か多い 20:40:40	ほぼ平年並 30:40:30

(参考)九州北部地方の梅雨入り日と梅雨明け日

九州北部地方：山口県、福岡県、大分県、長崎県、佐賀県、熊本県

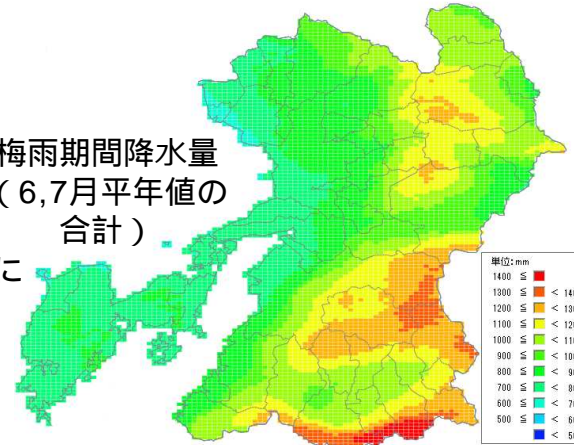
九州北部地方の梅雨入り、梅雨明け日と、 熊本県内主要4地点における梅雨期間の合計降水量(2013年以降)

西暦(和暦)	梅雨入り	梅雨明け	梅雨期間(6~7月)の合計降水量(mm)			
			熊本	阿蘇乙姫	人吉	牛深
2013(H25)	5月27日ごろ (かなり早い)	7月8日ごろ (早い)	426.5	912.0	545.5	304.0
2014(H26)	6月2日ごろ (早い)	7月20日ごろ (平年並)	616.5	808.5	930.5	909.0
2015(H27)	6月2日ごろ (早い)	7月29日ごろ (遅い)	1003.5	1317.5	1304.5	1229.0
2016(H28)	6月4日ごろ (早い)	7月18日ごろ (平年並)	1033.0	1621.5	1256.0	835.0
2017(H29)	6月20日ごろ (かなり遅い)	7月13日ごろ (早い)	611.0	874.5	776.0	412.5
2018(H30)	6月5日ごろ (平年並)	7月9日ごろ (早い)	663.0	1019.5	1067.5	630.0
2019(R01)	6月26日ごろ (かなり遅い)	7月25日ごろ (遅い)	853.0	1019.5	1295.0	811.5
2020(R02)	6月11日ごろ (遅い)	7月30日ごろ (遅い)	1363.5	2085.0	1648.5	1760.5
2021(R03)	5月11日ごろ (かなり早い)	7月13日ごろ (早い)	353.0	584.0	441.0	330.5
平年値	6月4日ごろ	7月19日ごろ	835.3	1250.5	1051.9	758.5

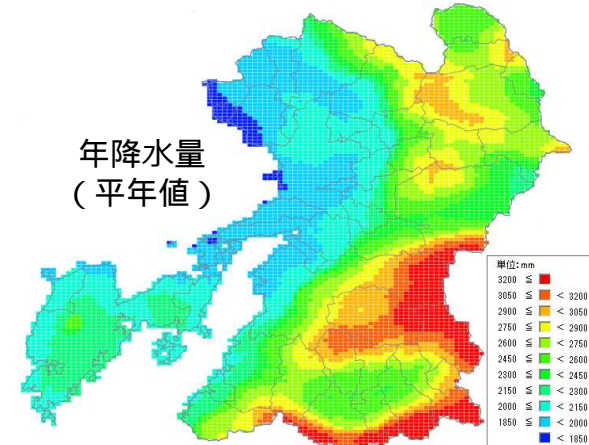


牛深では、2020年7月の月降水量は「月降水量の多い方から」の極値を更新した。
2021年の梅雨入りは、1951年以降最も早い梅雨入りとなった。

梅雨期間降水量
(6,7月平年値の
合計)



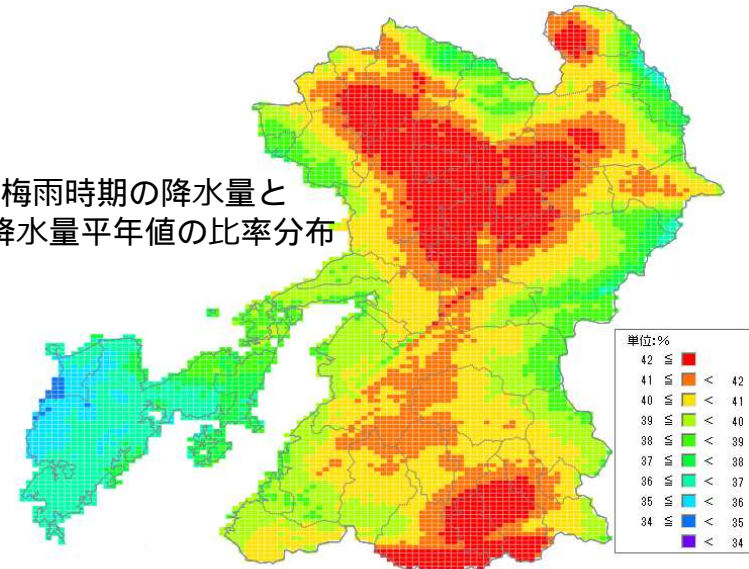
年降水量
(平年値)



平年値 (1991~2020年) による、年間降水量に
占める梅雨期間 (6~7月) の降水量の割合

観測地点	平年降水量 (mm)		比率 %
	梅雨期間	年間	
熊本	835.3	2007.0	42
阿蘇乙姫	1250.5	3009.6	42
人吉	1051.9	2534.9	41
牛深	758.5	2109.8	36
下関	563.0	1712.3	33
福岡	548.7	1686.9	33
佐賀	693.8	1951.3	36
長崎	628.6	1894.7	33
大分	574.9	1727.0	33
宮崎	855.6	2625.5	33
鹿児島	935.1	2434.7	38

梅雨時期の降水量と
年降水量平年値の比率分布



熊本県内の年間降水量は、九州山地西側の球磨地方や阿蘇地方で特に多い。
また、年間降水量に占める梅雨期間の降水量の割合が比較的大きいのが特徴。
たとえば、熊本では年間降水量2000ミリ前後に対し、6~7月の梅雨期間の降水量は800ミリ程度で、
年間降水量の約4割を占める。

平時

市町村等との「顔の見える関係」構築

台長から担当レベルまで、日頃からの関心事項・ニーズの把握など、積極的な交流により、地域目線での情報交換を充実

災害リスクや情報利活用の研修・演習

市町村や地域コミュニティにおいて実践的な勉強会（気象防災ワークショップ）を計画的・積極的に実施、幅広い知識・スキルの向上を図る
市町村等を行う訓練に、気象防災対応シミュレーションツールの活用、シナリオ作成等で積極的に協力し、共同した訓練も実施
関係機関（整備局、消防等）と連携し、地域防災リーダー向けの防災教育や住民向け普及啓発イベントの実施や協力参加

防災計画や避難勧告マニュアル等への助言

タイムライン作成、規制区域設定（火山）など、市町村の関心事項へ積極的に参画し助言

地域に根差した解説・助言

地域の気象、地震・火山、海洋・地球環境、過去の災害・データや、中長期リスク等を踏まえ、防災への備えや地域産業の興隆等の支援

関係機関等との連携した取組

火山防災や大規模氾濫減災の協議会、気候変動適応センター等と積極的に連携し、発生した現象や防災対応などの情報共有

緊急時

気象台からのコメント（気象台全体で対応）
予報官が市町村や防災機関に特に注目してほしいポイントや今後の見通し等を解説
台風説明会、記者会見
防災上の留意点、状況の変化を適時に広く周知・解説

ホットライン

気象台の危機感を首長等に直接電話

JETTの派遣

災害発生・予見時に都道府県・市町村に職員を迅速に派遣し、状況に応じた適時の解説を行い、関係機関の防災対応を支援

災害後

自治体等と共同で「振り返り」、
平時・緊急時の業務に反映
防災気象情報の内容・タイミング・伝え方、情報の理解・活用力など共同でレビュー

「あなたの町の予報官」による対応

「気象防災アドバイザー」による協働もあり

地域防災支援の全てのステージ・あらゆる場面で 気象防災データベース の活用

平時・緊急時・災害後の各ステージで、市町村などの情報を気象防災データベースとして有効活用（令和元年度～）。

さらに、市町村担当者が気象台担当者と同じ資料を共有し状況を確認できるよう機能強化を進める。

・気象、地形、地盤、災害、地震・火山活動・防災計画・計画、避難勧告マニュアル、ハザードマップ、タイムライン等・住民向け講演会や気象防災ワークショップ等の実戦的資料等

(参考) 令和2年7月豪雨時のJETT派遣

令和2年7月豪雨では、JETT(気象庁防災対応支援チーム)を熊本県庁、八代市、人吉市、芦北町、あさぎり町、球磨村へ派遣し、気象解説等により地方公共団体等の防災対応を支援。

熊本県庁 3名派遣 (7/4~29)

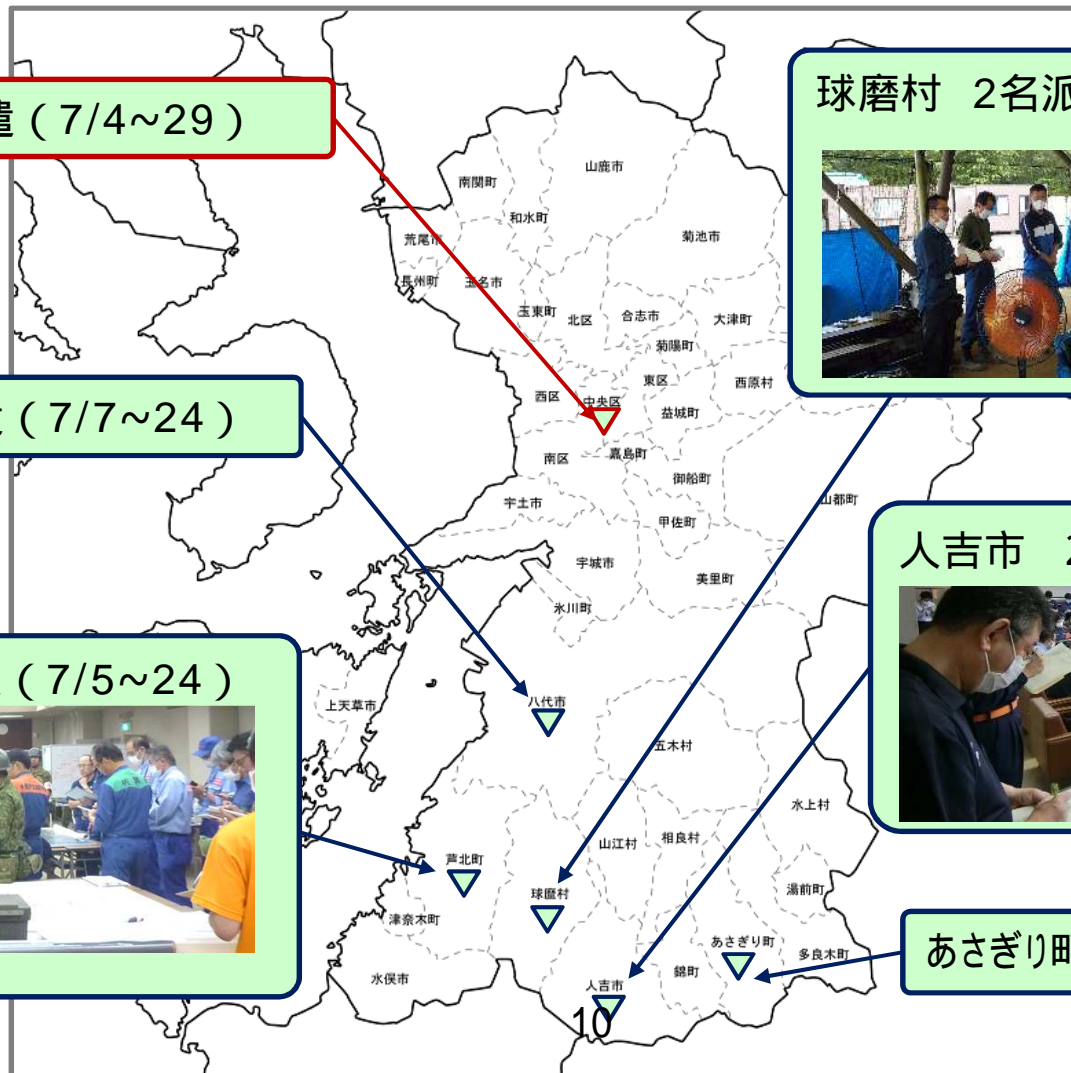
球磨村 2名派遣 (7/9~22)

八代市 2名派遣 (7/7~24)

人吉市 2名派遣 (7/5~22)

芦北町 2名派遣 (7/5~24)

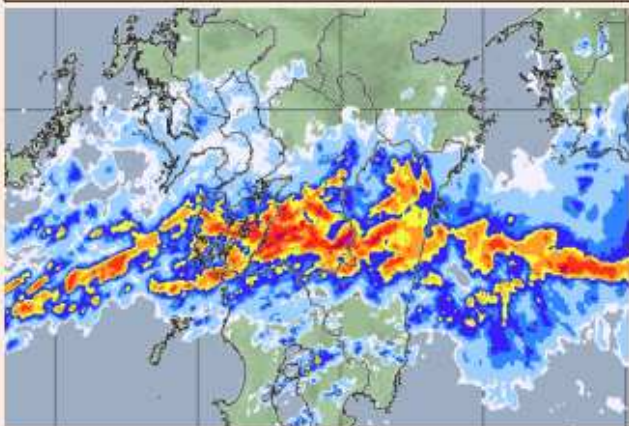
あさぎり町 2名派遣 (7/7~17)



6月1日から、産学官連携で、スーパーコンピュータ「富岳」も活用し、世界最高レベルの技術を用いた線状降水帯予測を開始します。

<令和4年度の実施内容>

半日前からの予測情報の提供

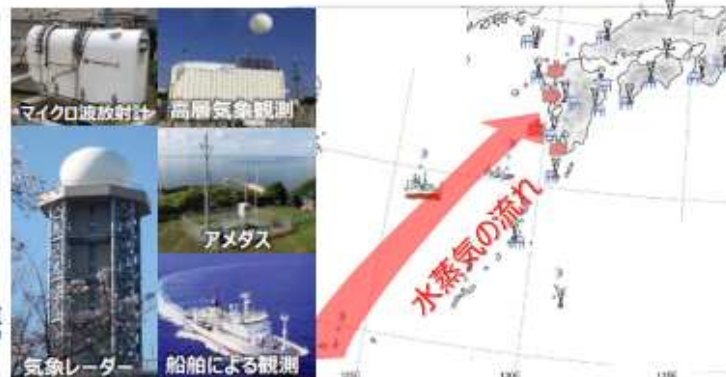


線状降水帯による大雨について、**早めの避難につなげるため、たとえば、「半日後に、九州北部で発生」といった予測を開始。**

(深夜や未明の状況を予想して、**明るいうちに避難の心構えを！**)

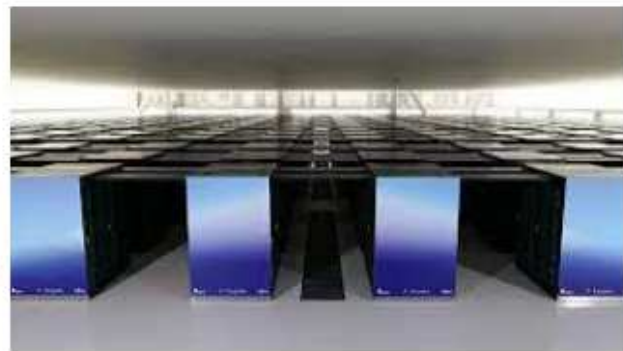
水蒸気観測の強化と集中観測の実施

- 観測機器の整備を強化・前倒し
- 産学官連携を活用し、大学や研究機関との連携による集中観測を実施



スーパーコンピュータ「富岳」の活用

スーパーコンピュータ「富岳」を活用し、開発中の予報モデルのリアルタイムシミュレーション実験を実施



今後、引き続き技術開発等を進め、更なる予測精度向上を図っていく

気象情報において線状降水帯の可能性に言及

- 令和4年度から「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性が高い場合に、「気象情報」において、半日程度前から地方予報区単位等で呼び掛け、情報の充実を図る。 ※地方予報区：全国を11ブロックに分けた地域
- 警戒レベル相当情報を補足する解説情報として発表。

大雨に関する〇〇地方気象情報
〇年〇月〇日〇時〇分 気象庁発表

<見出し>

〇〇地方では、線状降水帯が発生する可能性があり、大雨災害発生の大危険度が急激に高まるおそれがあります。

<本文>

… (中略) …

[量的予想]

<雨の予想>

〇日〇時から〇日〇時までに予想される24時間降雨量は、いずれも多い所で、

〇〇県 〇ミリ

〇〇県 〇ミリ

〇〇県 〇ミリ

の見込みです。

線状降水帯が発生した場合は、局所的にさらに雨量が増えるおそれがあります。

… (中略) …

[補足事項]

今後発表する防災気象情報に留意してください。
次の「大雨に関する〇〇地方気象情報」は、〇日〇時頃に発表する予定です。

大雨が予想される際に発表される気象情報に、線状降水帯発生の可能性に言及するフレーズを挿入

予想雨量と併せて、線状降水帯が発生した場合にはさらに状況が悪くなる可能性があることを伝える

(参考) 南岸低気圧による関東の大雪への注意喚起

[防災事項]

関東甲信地方では、10日から11日にかけて広い範囲で雪や雨が降り、大雪となる所がある見込みです。予想より気温が低くなった場合には、警報級の大雪となるおそれがあります。

大雪や路面凍結による交通障害に注意・警戒し、電線や樹木への着雪に注意してください。また、ビニールハウスやカーポートの倒壊にも注意してください。

大雨による土砂災害、洪水害、浸水害の危険度が高まった「地域」の判別のため、以下の3つのメッシュ情報（危険度分布図）を提供している。

大雨警報（土砂災害）のキキクル **大雨警報（浸水害）のキキクル** **洪水警報のキキクル**

高解像度降水ナウキャストで雨雲の動きを確認しつつ、併せて危険度分布図を活用して災害発生危険度の高まりを把握願います。

スマートフォンで閲覧する方法

熊本地方気象台
Kumamoto Meteorological Office

- 雨雲の動き
- キキクル（危険度分布）**
- 警報・注意報
土砂災害警戒情報
- 早期注意情報（警報級の可能性）
- 指定河川洪水予報
- 台風情報
- 今後の雨（降水短時間予報）
- 天気予報
- 府県気象情報
- 記録的短時間大雨情報
- アメダス実況
- 阿蘇山（中岳）上空の風



高解像度降水ナウキャスト 雨雲などの動きがわかる！

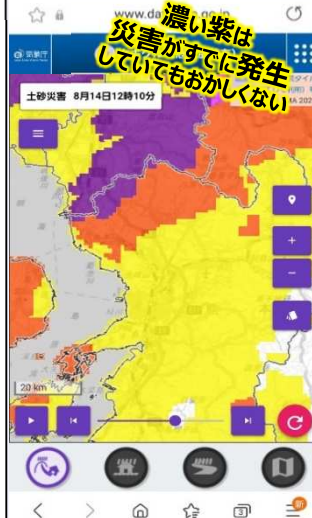
強い雨雲の動き、雷、突風の危険が事前にわかる！



- 雨雲の動き
- 雷活動度
- 竜巻発生確度
- アメダス10分間雨量
- 落雷、×雲放電
- 線状降水帯

大雨警報（土砂災害）の危険度分布 土砂災害の危険度がわかる！

危険度が高まっている場所の土砂災害警戒区域等では、避難の判断を！



- 極めて危険**
(命に危険が及び土砂災害がすでに発生していてもおかし(ない極めて危険な状況。)
この段階の前に避難を完了しておく。
- 非常に危険**
土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ避難する
- 警戒**
土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ避難する。高齢者等は速やかに避難する。
- 注意**
ハザードマップ等により避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。
- 今後の情報等に留意

スマートフォンで閲覧する方法



- 雨雲の動き
- キキクル（危険度分布）**
- 警報・注意報
土砂災害警戒情報
- 早期注意情報（警報級の可能性）
- 指定河川洪水予報
- 台風情報
- 今後の雨（降水短時間予報）
- 天気予報
- 府県気象情報
- 記録的短時間大雨情報
- アメダス実況
- 阿蘇山（中岳）上空の風



大雨警報（浸水害）の危険度分布 浸水害の危険度がわかる！



危険度が高まっている場所では、
各自の判断で浸水が及ばない場所への移動
を！



- 極めて危険**
（重大な災害がすでに発生している恐れが高い極めて危険な状況）
- 非常に危険**
周囲の状況を確認し、各自の判断で
屋内の浸水が及ばない階に移動する。
- 警戒**
安全確保行動をとる準備が整い次第、
早めの行動をとる。高齢者等は速や
かに安全確保行動をとる
- 注意**
今後の情報や周囲の状況、雨の降り
方に注意。ただし、各自の判断で住宅
の地下室からは地上に移動し、道路の
アンダーパスに近づかないにする。
- 今後の情報等に留意

洪水警報の危険度分布 洪水の危険度がわかる！



危険度が高まっている河川沿いでは、
水位計等で現況も確認の上で避難の判断を！



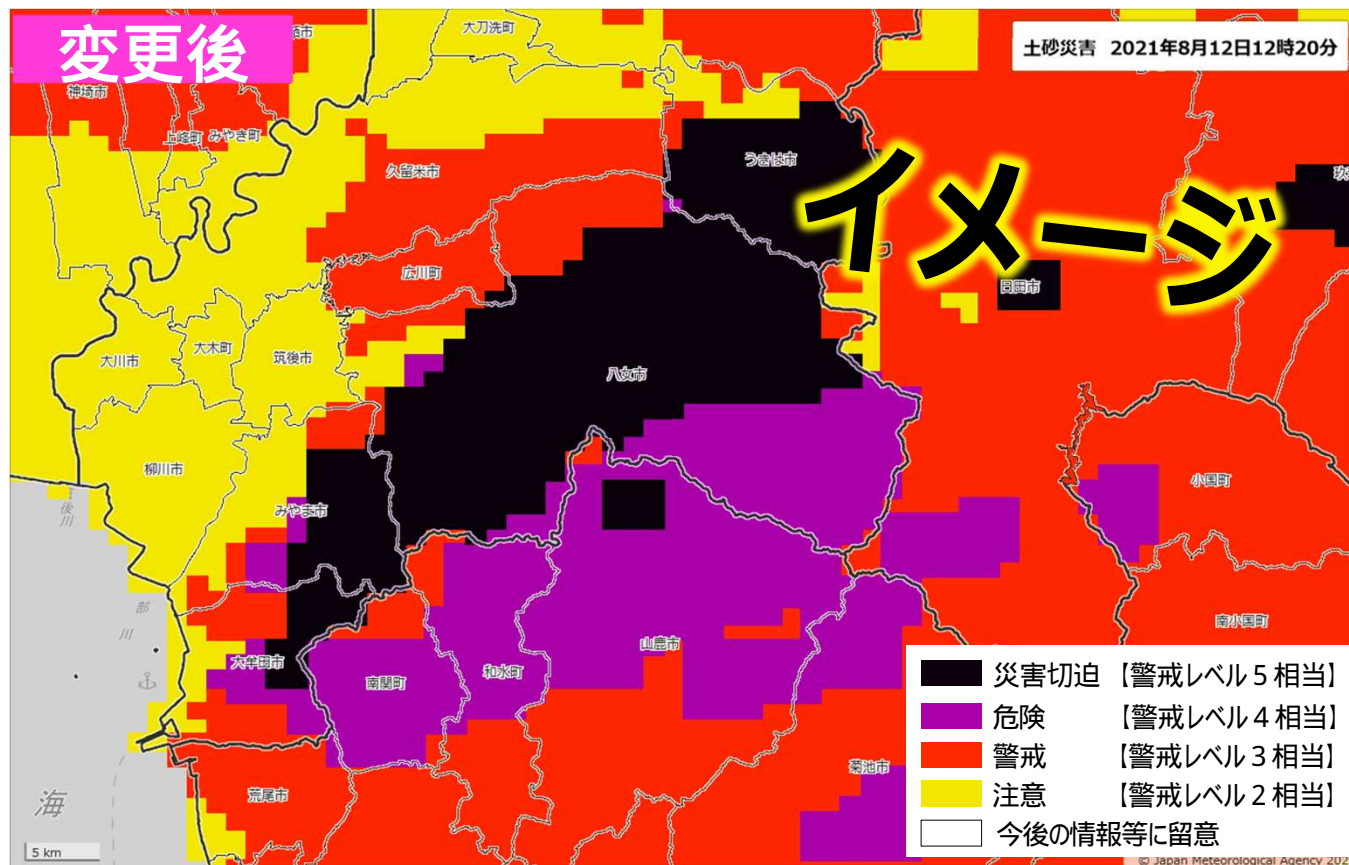
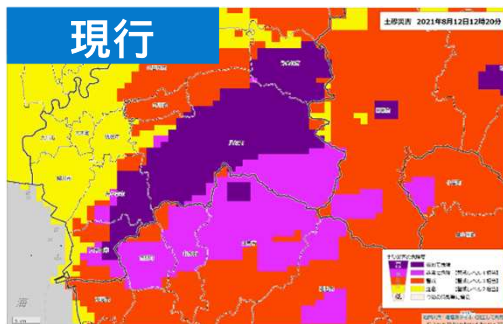
- 極めて危険**
（重大な災害がすでに発生している恐
れが高い極めて危険な状況）
- 非常に危険**
河川水位が一定の推移を越えている場
合には速やかに避難する。
- 警戒**
河川水位が一定の水位を超えている場
合には避難準備が整い次第、避難する。
高齢者等は速やかに避難する。
- 注意**
ハザードマップ等により避難行動を確認
する。今後の情報や周囲の状況、雨の
降り方に留意する。
- 今後の情報等に留意

太い線は「指定河川洪水予報」

熊本地方気象台スマートフォン版HP
https://www.jma-net.go.jp/kumamoto/smart/sp_top.htm

- 雨雲の動き（高解像度降水ナウキャスト）は、「これまでの雨雲の動き」 + 「今後1時間先までの5分ごとの雨雲の詳細な動きの予想」を閲覧できます。
- 今後の雨（降水短時間予報）は、「これまでの雨雲の動き」 + 「今後15時間先までの1時間ごとの雨雲の動きの予想」を閲覧できます。

大雨警報(土砂災害)の危険度分布



「濃い紫」を「黒」に、「うす紫」を「紫」に色を置き換えたものであって、大雨特別警報基準値に実況で到達したことを示す「黒」等の想定される出現状況とは異なります。

「令和2年7月豪雨における災害対応の振り返り」への対応状況

1 進捗状況

(項目)

主な振り返り項目	課題となった項目数	これまでに実施している項目数	一部未実施、実施までに時間を要する項目数
1 住民の避難	17	14	3
2 初動対応	68	49	19
3 被災者の生活の支援	77	66	11
4 被災者の住まいの確保	12	10	2
5 県内外からの応援職員の派遣	18	16	2
6 施設の復旧、業務継続・再開対策	69	60	9
7 自助・共助	3	3	-
8 災害対応を行うための庁内体制の確保	7	1	6
合計	271	219	52

課題のうち、219項目（約8割）をこれまでに実施

2 取組内容

	これまでに実施している主な項目	一部未実施、実施までに時間を要する主な項目
1 住民の避難	<p>ハザードマップの更新・作成及び周知の徹底 予防的避難の推進及びタイムラインの策定 多様な情報伝達手段の確保 避難行動要支援者に対する支援の充実</p>	<p>災害危険区域等からの住居移転の推進 避難確保計画の策定推進と訓練実施（各計画の実行性確保に向けた支援）</p>
2 初動対応	<p>十分な執務スペース確保 氏名等公表に関する対応方針の見直し プレスルームの確保 防災情報共有システムを活用した孤立集落の情報把握 本部室内担当部署の見直し 災害支援ナースの県内登録者の増加推進</p>	<p>行政庁舎の耐災性の強化（通信機能の強靱化の検討） アナログとデジタルのハイブリッドによる、効率的な情報収集体制の構築 現地対策本部との情報共有の促進 診療所情報のEMIS登録の推進</p>
3 被災者の生活の支援	<p>避難所管理者等との情報共有の仕組みの構築 情報の一元化と責任者の明確化 広域における福祉避難所の確保等 様々な災害を想定した市町村災害廃棄物処理計画の見直し 堆積土砂等の仮置場の確保に向けた調整 市町村社協間の応援体制、社協と民間支援団体等の連携体制の構築</p>	<p>各福祉関係団体の役割分担の明確化 災害廃棄物処理等に係る近隣県の施設に係る情報収集・整理 スクールカウンセラー派遣に係る財源確保(補助率嵩上げ) ペットを飼っている在宅避難者の把握</p>
4 被災者のすまいの確保	<p>市町村における担当部署の明確化 住家被害認定調査及び罹災証明書交付事務に関する事務フローの作成等 事務手続きの改善・簡素化 建築関係団体と社会福祉協議会との連携 公有地のリスト化と遊休民有地の活用 避難所や被災者に対する住宅情報等の周知方法の検討</p>	<p>小規模宅地被害（点在した被災宅地）の把握 賃貸型応急住宅の対象物件の検討</p>

2 取組内容

	これまでに実施している主な項目	一部未実施、実施までに時間を要する主な項目
5 県内外からの 応援職員の派遣	<p>出水期前の情報連絡員研修の実施及び携行品等の事前準備</p> <p>派遣調整業務の役割分担の検討</p> <p>「被災市区町村応援職員確保システム」の制度内容及び活用方法の周知</p> <p>応援職員に関する感染症対策の事前周知</p>	被災市町村における応援ニーズの把握
6 施設の復旧、 業務継続・再開 対策	<p>人員確保に向けた非常時優先業務の整理</p> <p>早急の復旧及び必要な防災対策の実施</p> <p>円滑な災害復旧に向けた体制強化</p> <p>ため池サポート体制の構築</p> <p>関係団体との協定による回収体制の構築</p> <p>派遣のあり方の検証及び見直し</p> <p>被災地における情報収集の強化</p>	<p>広域本部・振興局の非常用発電機等の上層階への移転</p> <p>高齢者福祉施設における通信手段の確保</p> <p>被災企業の雇用の維持</p>
7 自助・共助に よる対応	<p>予防的避難、マイタイムラインの作成推進等を通じた自助に関する意識の向上</p> <p>自主防災活動の推進に向けた連絡体制の整備や訓練を支援</p> <p>地域の防災リーダーの育成</p>	-
8 災害対応を 行うための庁内 体制の確保	健全な財政運営に向けた取組	<p>市町村における取組み</p> <p>非常時優先業務の厳選及び必要人員の見直し</p> <p>市町村受援計画の策定及び見直しの推進</p>

九州を支える広域防災拠点イメージ（案）

総合調整を行う指令拠点

- 合同現地対策本部機能
- 情報収集機能
- 災害対応ノウハウの提供・発信機能

- ・国の現地対策本部設置（熊本地方合同庁舎B棟）
- ・新防災センター整備（R5.4完成予定）

国の現地対策本部との連携強化

- ・国、県施設の連携した災害対応に向けた運用の検討
- ・国、西部方面総監部、九州各県等との訓練
- ・熊本地震、令和2年7月豪雨で蓄積した災害対応ノウハウの提供・発信



【熊本地方合同庁舎B棟】



【新防災センター】

「すべての道は熊本に通じる」

～九州の中央熊本からつながる高速交通基盤～

- 九州各県へのアクセス機能

- ・九州中央自動車道の整備（一部区間開通）
- ・中九州横断道路の整備（一部区間開通）等

九州の横軸の更なる強化

- ・九州中央自動車道、中九州横断道路の整備促進等を国へ要望
- ・南九州西回り自動車道、有明海沿岸道路等の整備促進

- ・広域応援部隊等の迅速かつ円滑な移動
- ・大量かつ安定的な物資輸送
- ・広域避難者の速やかな移送



【九州中央自動車道(山都中島西IC)】
(写真提供：国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所)

支援部隊・支援物資等の集結拠点

- 支援部隊等の集結・活動拠点機能
- 支援物資の集積拠点機能
- 水・食料・医薬品等の備蓄・供給機能

- ・総合防災航空センター、防災駐機場整備
- ・阿蘇くまもと空港、県産業展示場、八代港が国計画で集結拠点に位置付け
- ・県消防学校、県民総合運動公園、熊本港等が県計画で集結拠点に位置付け

拠点施設の充実・強化

- ・消防学校施設等の支援部隊活動拠点としての整備
- ・岸壁整備(熊本港、八代港)、ふ頭拡充(熊本港)による支援物資集積拠点としての機能強化



【防災駐機場】



【県産業展示場】

災害医療支援拠点

- 災害医療支援機能

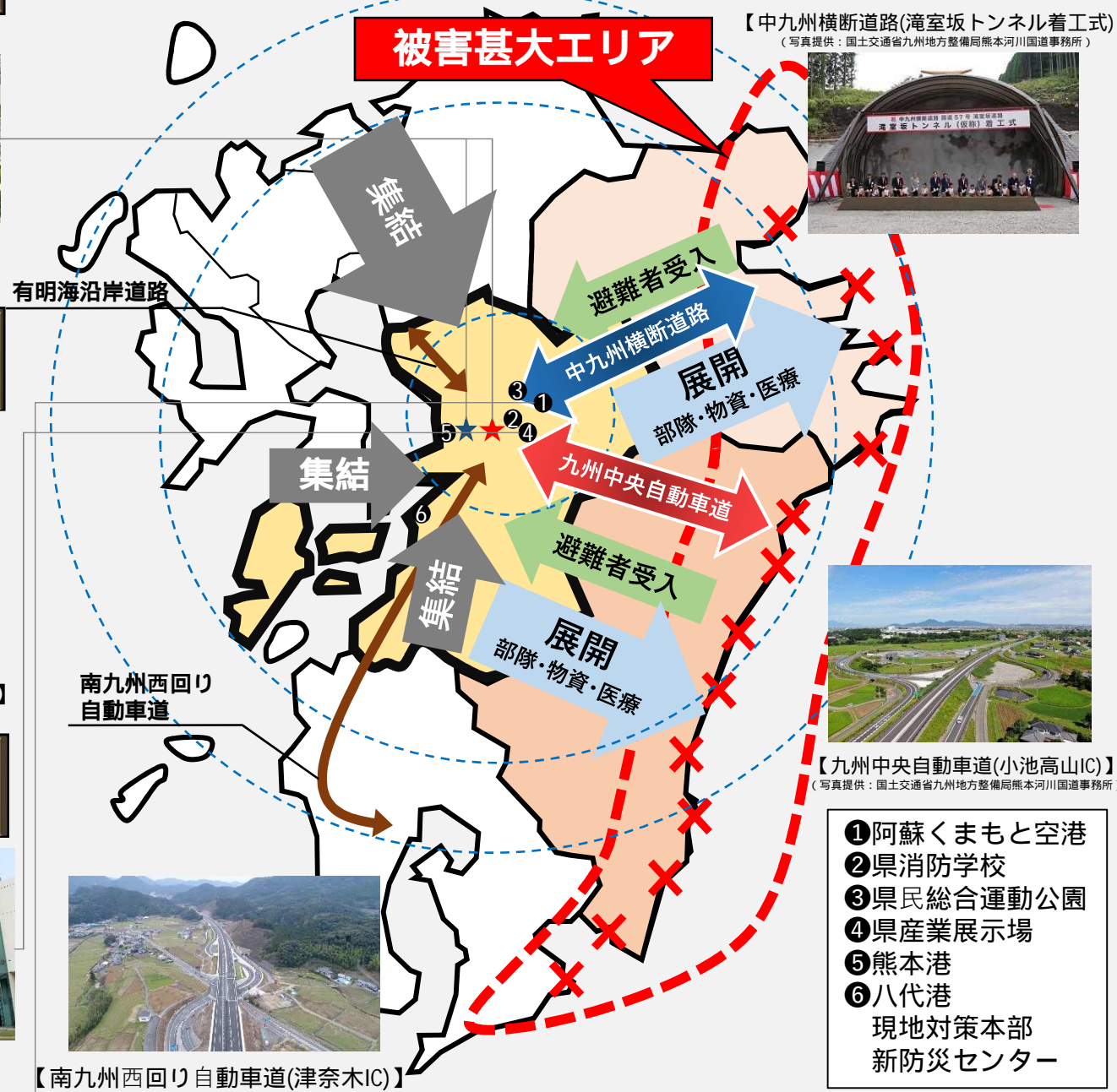
- ・阿蘇くまもと空港が国計画で災害医療支援拠点に位置付け
- ・崇城大学空港キャンパスとの施設利用協定の締結 等

広域医療搬送拠点等の充実・強化

- ・他県や関係機関と連携した災害医療提供体制整備



【阿蘇くまもと空港】



【中九州横断道路(滝室坂トンネル着工式)】
(写真提供：国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所)



【九州中央自動車道(小池高山IC)】
(写真提供：国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所)

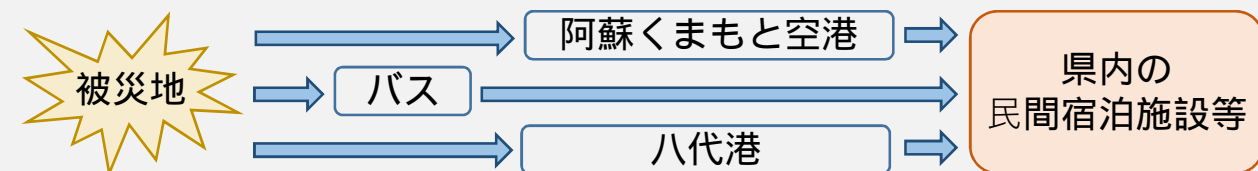
【南九州西回り自動車道(津奈木IC)】
(写真提供：国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所)

<新たな取り組み>

避難者受入れ拠点

- 避難者受入れ機能

- ・九州各県からの避難者の受入体制の整備



1. 令和3年度の取組み

区 分	内 容
(1)国民保護計画	<p>計画の一部変更(令和4年3月15日変更) 県の組織改正に伴う国民保護措置に係る県の組織・体制及び各部局における事務の変更(別添新旧対照表のとおり)。 商工観光労働部を再編し、「商工労働部」及び「観光戦略部」を設置。</p>
(2)全国瞬時警報システム(J-ALERT)	<p>J-ALERTによる訓練(消防庁による訓練)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月19日 ・令和3年10月6日 ・令和4年2月16日 <p>情報の受信確認等の訓練を全市町村で実施</p> <p>防災行政無線等の自動起動を一部市町村で実施。</p>
(3)緊急情報ネットワークシステム(Em-Net)	<p>Em-Net(エムネット)導通試験(内閣官房による訓練) 緊急情報を迅速かつ的確に自治体等へ伝達し、緊急事態における連絡体制の強化等を図るため、毎月、Em-Netによる受信訓練を実施。</p>
(4)訓練等	<p>国民保護図上訓練(R4.1.31) 県の交通拠点でのテロ事案を想定した図上訓練を熊本市と共同で実施。事案発生時の住民避難など初動対応や事態認定前後の法定手続をはじめ、警察や消防、自衛隊など関係機関との連携要領を確認。</p> <p>避難実施要領パターンの作成支援研修(R3.12.24) 有事における住民避難のため、複数の避難パターン作成や、弾道ミサイルの飛来等を想定した、市町村における住民避難体制の確認・強化を目的とした研修を実施。</p>

2 . 令和 4 年度の計画

区 分	内 容
(1)国民保護計画	計画の一部変更 第 1 編第 4 章 県の地理的、社会的特徴に関する人口や消防力等の統計数値の時点修正等を予定。
(2)全国瞬時警報システム (J-ALERT)	J-ALERTによる訓練(消防庁による訓練) 緊急情報の迅速かつ的確な住民への伝達のため、J-ALERTによる情報伝達等の訓練を年 3 回実施。
(3)緊急情報ネットワークシステム (Em-Net)	Em-Net(エムネット)導通試験(内閣官房による訓練) 緊急情報を迅速かつ的確に自治体等へ伝達し、緊急事態における連絡体制の強化を図るため、毎月、Em-Netによる情報受信訓練を実施。
(4)訓練等	国民保護訓練 日本を取り巻く現在の世界情勢も踏まえ、関係機関相互の連携強化及び機能確認のため、国民保護に関する図上訓練等を実施。(時期未定)
(5)危機事案対応	アジア・太平洋水サミットへの対応(R4.4) 開催期間中の有事に備え、熊本市アジア・太平洋水サミット推進室や関係機関との連絡調整や初動対応のため、臨時の危機管理体制を確保。 緊急処理事態等への対応 様々な有事を想定し、市町村をはじめ、警察・消防・自衛隊等との関係機関とも連携した体制構築を図ると22にも、各種事案に迅速、適切に対処。